

獣医行動診療科認定医制度の有効期間と更新方法について

- 獣医行動診療科認定医（以下認定医と省略）の有効期間を認定（認定発表時の10月）から5年が経過した12月末日とする。ただし、諸事情により更新手続きに猶予が必要と考えられる際には試験委員会宛文書にて申し出ることができる。
- 更新が必要な認定医には、試験委員会が当該年の8月にメールで通知する。
- 当該認定医は、別途定める更新書類（認定医更新申請活動報告書）を10月末までに提出するものとする。
- 更新は5年ごととする。ただし1回以上の更新後60歳を超えた認定医には、「終生認定医」の称号を与え、以降の更新手続きは不要とする（例えば、48歳で認定を受けた者は、53歳、58歳時に更新手続きを行い、以降は終生認定医、60歳で認定を受けた者は、65歳時に更新手続きを行い、以降は終生認定医となる）。
- 更新は別途定める更新ポイント換算表により、5年間の総計50ポイント以上を条件とする。ただし各項目の上限は30ポイントとする。
- 審査は提出者の人数に応じて試験委員会が設立認定医、終生認定医の中から委嘱する複数名の「認定医更新評価委員」が行う。認定医更新評価委員は12月末までに結果を試験委員会に報告する。

認定医資格の取り消しについて

資格取得後、以下の場合は、所定の手続きを経て獣医行動診療科認定医の資格を取り消すことがある

- 更新手続きが行われなかった場合
- 本研究会から退会した場合
- 認定医としての資質に問題があると判断される場合

認定医更新ポイント換算表

※1～7の項目については上限を30ポイントとするが全てについて記載すること

※行動学関連のもののみを対象とする

項目	小分類	ポイント数	説明
1. 症例数	1-1	件数×0.2	主治医として診た初診の症例数
2. 執筆に係る活動	2-1 単著（訳書を含む）	件数×5	書物全部の執筆・翻訳
	2-2 共著	件数×4	書物一部の執筆 当該部分は筆頭著者 同一書は一件とみなす 共著者がいる場合は共著者名も記載すること
	2-3 共同訳書	件数×3	書物一部の翻訳 当該部分は筆頭著者 同一書は一件とみなす 共著者がいる場合は共著者名も記載すること
	2-4 監修・監訳	件数×1	書物全部の監修・監訳 共同者がいる場合は共同者名も記載すること
	2-5 学術英文（査読あり）	件数×8	論文（筆頭著者，責任著者のみ）共著者がいる場合は共著者名も記載すること
	2-6 学術和文（査読あり）	件数×5	論文（筆頭著者，責任著者のみ）共著者がいる場合は共著者名も記載すること
	2-7 学術和文（査読なし）	件数×3	論文（筆頭著者，責任著者のみ）共著者がいる場合は共著者名も記載すること
	2-8 商業誌等（監修のみは含まない）	件数×2	臨床家向けの雑誌，愛犬雑誌等への寄稿
3. 発表に係る活動	3-1 国際学会	件数×8	発表者のみ 国際学会での学術発表
	3-2 国内大規模学会等	件数×5	発表者のみ 日本獣医内科学アカデミー学術大会，動物臨床医学会年次大会，日本臨床獣医学フォーラム年次大会，日本獣医師会獣医学術学会年次大会，ヒトと動物の関係学会学術大会等
	3-3 国内地方学会等	件数×3	発表者のみ 3-2 以外の国内学術発表 3-2，3-3 の分類が不明の場合は問い合わせること
4. 講演活動	4-1 国際学会による招聘	件数×5	45分以上の依頼講演（オンラインも含む）
	4-2 学術団体・公共機関等による招聘	件数×3	45分以上の依頼講演（オンラインも含む） ※日本獣医動物行動研究会における活動は項目6に記載すること
	4-3 企業・病院等上記機関以外による招聘	件数×2	45分以上の依頼講演（オンラインも含む）
5. 教育活動	5-1 大学，短期大学，専門学校における学期にわたる授業	単位数×5	講義を分担している場合は，単位数×（担当時間÷全体の授業時間）を記入 複数年の講義が同一のものであれば，1回分として計算する
	5-2 上記教育機関，法人主催の資格習得のための単回開催授業	件数×1	45分以上の講義
6. 研究会活動	6-1 各セミナーの講義，症例紹介等	件数×5	JVSAB 主催の教育セミナー，アドバンスセミナー，ベーシックセミナー等
	6-2 各セミナーのアドバイザー・司会等	件数×1	JVSAB 主催の教育セミナー，アドバンスセミナー，ベーシックセミナー等
	6-3 研究会主催の症例相談対応	件数×2	
	6-4 執行委員担当	1年×2	
7. 社会貢献	7-1 国，自治体，法人からの委員委嘱	件数×0.5	企業等は除く

認定医更新申請活動報告書（記載方法）

氏名

現職

活動報告

1. 別紙ポイント換算表を参考に小分類ごとに分けて記載すること
2. 今後の抱負以外（下記項目1～7）については上限を30ポイントとするが、それを越える場合でもすべて記載すること
3. 活動報告には行動学関連のもののみを記載すること
4. 項目ごとの記載方法について：該当がない項目、小分類は記載不要
 1. 症例数の記載方法：主治医として診た初診のみについて5年間の合計数を記載
 2. 執筆に係る活動の記載方法：小分類ごとに最近のものから順に記載すること
 - 2-1 書籍名，発行所，年
 - 2-2, 3 書籍名，監修，執筆（翻訳）した章とタイトル，ページ，発行所，年
 - 2-4 書籍名，発行所，年
 - 2-5, 6, 7 タイトル，筆頭か責任か 雑誌名，巻，号，ページ，年
 - 2-8 タイトル，雑誌名，号，ページ，年
 3. 発表に係る活動の記載方法：小分類ごとに最近のものから順に記載すること
 - 3-1, 2, 3 タイトル，学会名，月，年
 4. 講演活動の記載方法：小分類ごとに最近のものから順に記載すること
 - 4-1, 2, 3 タイトル，主催者，場所，月，年
 5. 教育活動の記載方法：小分類ごとに最近のものから順に記載すること
 - 5-1 科目名，教育機関名，対象者，単位数，年
 - 5-2 タイトル，教育機関・法人名，対象者，授業回数，年
 6. 研究会における活動の記載方法：小分類ごとに最近のものから順に記載すること
 - 6-1 タイトル，セミナー名，月，年
 - 6-2 タイトル，セミナー名，役割（司会等），月，年
 - 6-3 件数，実施年月
 - 6-4 執行委員（担当した役割），担当年
 7. 社会貢献の記載方法：最近のものから順に記載すること
 - 7-1 委員名 依頼先 年（期間）
 8. 今後の抱負の記載方法：200～400字程度で自由記述

認定医更新申請活動報告書（記載例）

氏名 桜 香
現職 さくら動物行動クリニック 院長

活動報告

1. 症例数： 243 件
2. 執筆に係る活動
 - 2-1 ・犬の行動学, ファームプレス, 2024 年
 - 2-2 ・犬と猫の獣医臨床, 犬野猫子監修, 第 9 章問題行動, pp256-301, EDUWARD Press, 2025 年
・獣医行動学, 猫野犬尾監修, 第 6 章犬の不安に関する問題行動, pp110-118,
第 9 章猫の不安に関する問題行動, pp161-170, 緑書房, 2024 年
 - 2-3 ・犬と猫の気持ち, 桜 香, 椿 太郎 (共同監修), pp1-180, 行動学プレス, 2025 年
 - 2-5 ・Differences in background of behavior problems of cats, (責任著者: Tsubaki T.,
Inuno N., Sakura K.), J Vet Med Sci 92 pp25-30, 2021 年
 - 2-6 ・正常犬におけるフルオキシセチンの血中濃度の推移 (筆頭著者: 桜 香, 椿 太郎, 犬野猫子)
日獣会誌 111 巻 2 号, pp58-62, 2022 年
 - 2-8 ・犬のしつけの ABC 愛犬の友 6 月号 pp152-156, 2024 年
3. 発表に係る活動
 - 3-2 ・犬の化膿性脳脊髄炎による突発性攻撃行動を示した柴犬 内科学アカデミー学術大会
2 月 2025 年
 - 3-3 ・飼い主への攻撃を主訴とした 300 例の背景因子 北海道獣医師大会 8 月 2025 年
4. 講演活動
 - 4-2 ・臨床獣医師のみなさまへ: Fear Free のために今日からできること 日本臨床獣医学
フォーラム年次大会 東京 9 月 2026 年
・犬と飼い主の理想の関係づくりのために 日本獣医師会獣医学術学会年次大会
福岡 2 月 2024 年
 - 4-3 ・犬の分離不安における新薬の使用テクニック ヒルズ株 札幌 2 月 2025 年
・犬の分離不安における新薬の使用テクニック ヒルズ株 東京 3 月 2025 年
・犬の分離不安における新薬の使用テクニック ヒルズ株 大阪 6 月 2025 年
5. 教育活動
 - 5-1 ・動物行動学 北海道大学 獣医学科 3 年 1 単位 2024~2026 年
・動物行動学 帯広畜産大学 獣医学科 3 年 0.5 単位 (教員 2 人で 1 単位を等分分担)
2024~2026 年
 - 5-2 ・動物行動と動物福祉 東北学園大学 心理行動科学科 3 年次, 2 回 2022 年, 2023 年
・動物のしつけ 日本愛玩動物協会 愛玩動物飼養管理士スクーリング 1 級
1 回 (オンライン) 2022~2025 年

6. 研究会における活動

- 6-1 ・常同障害と柴犬 アドバンスセミナー 4月 2023年
- 6-2 ・自傷行動を考える 教育セミナー 司会 2月 2026年
- 6-3 ・症例相談3件 2022年4月, 2025年3月
- 6-4 ・執行委員 (アドバンス教育委員長), 2023~2026年

7. 社会貢献

- ・北海道 動物愛護推進協議会 委員 2022~2026年
- ・農林水産省 獣医事審議会 専門委員 2022~2025年

8. 今後の抱負

動物行動学、臨床行動学の発展のために、現在の状況を…

を目標に歩んでまいりたいと考えています (240字)。

「よくある質問」

- Q 「更新手続きが行われなかった場合、更新を取り消すことがある」ということは、取り消さないこともあるのか？
- A 更新手続きが行われなかった場合には基本的には取り消す。ただし、例えば病気で入院されているなどやむを得ない事情により更新手続きが行えなかった場合には、即時に取り消すということはない。事情を伝えてもらうことにより、更新手続き時期を遅らせることとする。
- Q 更新できず資格を失効した場合、「元認定医」と名乗るのは可能か？せっかく取得した認定医の資格なので、失効したとしても認定医だったということを残したい。
- A 「認定医」であった事実はあるので、「元認定医」と名乗ることを研究会が止めることはしない。ただし、更新できずに失効した場合は問題ないが、資質などの理由（不適合）で失効した場合は名乗ることはできないこととする。
- Q 各項目の上限が30ポイントならば、症例数のポイントをもっと増やすように設定できないか？
- A 1症例につき0.2ポイントなので、5年間で150症例、年間では30症例が上限となる。その程度は認定医として診療していただきたい。
前述したように、更新の際に個人の状況（やむを得ない事情）を含めて申請をしてもらえれば、更新時期の延長を検討する。
- Q 3年目くらいでリマインドを送ってもらい現時点でのポイント数を確認するようにしたらいいのではないかと？足りなければ講演や執筆、症例相談などを積極的にするなどしてポイントを加算できるようになるのではないかと？
- A 今後評価人数が増えていくので、リマインドを送ることぐらいは可能かもしれないが、ポイント数の確認は各自で対応していただきたい。
- Q 大学などでの講義が複数年の場合は1回分でカウントされるが、講演会などに比べるとポイント数が少ないのではないかと？
- A 大学の講義（複数年）は講演会などに比べると準備時間が少なくて済む可能性が高いため、1回分のカウントで十分であると考えられる。
講演会と同じにすると、大学の講義を複数年続けた場合に、それだけで上限30ポイントに到達する可能性が高いため、1回分としてカウントすることが適当と考えられる。

本ページに記載してある以外の不明点については試験委員会に問い合わせること

以上

認定医更新制度制定担当：南，尾形，入交，武内